

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
075-753-5270
www.rakuyukai.org

東京オリンピックピックと文化

洛友会会長 長尾 真 (昭34年卒)



洛友会会員の皆様、新年おめでとうございます。今年も皆様にとつて良い年であることをお祈り申し上げます。

地震や火山の噴火、あるいは多くの絶滅種が出ているなど、自然が非常に不安定になってきているだけでなく、国内の状況も中産階級が減少しつつあり、アベノミックスが必ずしも効果を発揮しそうにありませんし、世界経済全体が行きづまりに差し掛かっているようにも見え、今年来年あたりはいろいろと注意して過ごす必要がある

るでしょう。

さて話は変わりますが、一昨年の秋、2020年のオリンピック・パラリンピックが東京に決まりました。ロンドンオリンピック以来、オリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあると位置づけられ、開催国ではオリンピックの4年前から全国各地で種々の文化の祭典が行われるようになりました。2020年の東京大会についても種々の文化行事を行い、国内はもとより外国からの人達に日本の文化を理解してもらう絶好の機会であるとして準備をしなければなりません。

そういったことから文化庁の青柳長官(東大名誉教授、私の旧知の先生)その他の東京の関係者とも連絡を取りつつ、外国人観光客が安心して京都の良さを味わえる具体策を作るよう京都府や京都市

に提言することにしました。一昨年の暮れから、京都大学だけでなく立命館大学、龍谷大学、その他京都の大学の関係者に集まってもらって、どういう計画を立てるべきかについて相談し、何度かの会合での議論を纏めて提言書を作り、昨年3月に知事、市長に提言をしました。現在それに基づいて府市が協力して具体的な計画を立てる検討会を作つて進めつつあります。

我々の作つた提言書の趣旨は以下のとおりです。

「東京オリンピックはスポーツの祭典であることは言うまでもないが、外国から来る人たちはスポーツを楽しむだけでなく、日本とはどのような国かに興味を持って来日するわけで、日本文化を十分に味わえるよう、おもてなしの心で迎えることが大切である。東京オリンピックは日本を世界各国の人達に理解してもらつた絶好の機会であり、文化立国、観光立国日本を明確に打ち出し、世界の多くの人が他国にはない日本文化の良さを味わうために何度も訪れる契機とすることが大切である。

文化立国、観光立国日本を考えた時、日本の歴史・文化の凝縮した京都をあらゆる観点と興味から楽しめるように道路・交通・案内

標識などを整備することが大切である。京都には多くの歴史的建造物、美しい庭園、伝統的な京町屋やその街並み、仏像や各種の伝統工芸品、織物などの有形文化財のほかに、伝統を誇るお祭りや舞台芸術、華道、茶道、邦楽、食文化、寺院での写経、座禅など、数多くの無形文化財がある。特に後者については見るだけでなく体験学習をする機会をもうけることによつて、日本文化、日本人の物の考え方をより深く理解することが出来るようにすることが大切である。

京都にはこういった伝統に根ざす文化があるのみならず、戦前から映画製作の中心地として発展してきたし、近年はマンガ、ゲーム、アニメなどの創作活動の一つの中心地であつて、諸外国の若者の最も関心の高い訪問地となつていく。このような新しい創造的な活動は、外国からの若い訪問者を受け入れ研修させることによつて、これからますます大切となつていくコンテンツ産業の育成にもつながつてゆき、伝統産業と共にこれからの京都の活性化に大きく寄与するものとなるだろう。

海外からの旅行者の旅行計画の段階から旅行中まで一貫して支援し、安心安全で楽しく見学や体験学習ができるよう、京都観光についてのあらゆる詳細な情報のデー

迎春

二〇一五年一月一日

本 部 役 員

会 長 長尾 真

副 会 長 小澤 秀 司

松 辻 村 順 一

松 山 隆 司

支 部 長

関 西 細 野 文 雄

東 京 安 田 豊

中 部 安 藤 和 史

中 国 松 井 三 生

四 国 今 岡 幹 典

九 州 深 堀 慶 憲

北 陸 松 木 純 也

東 北 井 上 茂

北 海 道 中 山 道 夫

本 部 幹 事

荒 木 光 彦

木 村 磐 根

高 橋 達 郎

高 岡 義 寛

北 野 正 雄

引 原 隆 士

タベースを構築し、世界に発信し、観光中もリアルタイムに適切な案内をする情報ネットワークシステムを整備することが大切である。例えば交通の混雑状況や観光地の入場待ち行列などの実時間情報を基に効率よく見て回れ、また緊急時に際しては警察や交番、医院や病院、その他休憩所、避難所などについての情報が端末から即座に得られ、また緊急援助が受けられるようなシステムにする必要もある。そのためには多言語語機械翻訳システムの整備も欠くことができない。」

この提言の内容は東京オリンピックの機会だけでなく、京都の20年、30年先までの観光のための基盤を与えるものであり、世界中の人達が京都に来て日本の伝統文化を味わい、日本人の物の考え方を知り、有限の地球社会を人類が生きてゆくための知恵を学ぶことに貢献するものです。これこそが京都が世界に対して提供できる最も大切なことであるでしょう。

洛友会の皆様、特に年配の皆様も健康に気をお付けになり、東京オリンピックだけでなく、京都観光、京都の伝統文化、また母校の再発見の楽しみなどを味わってくださるよう期待いたします。

教室だより

**平成26年度電気系教室
懇話会報告**

平成26年度電気系懇話会が教員、学生、ならびに卒業生他約90名の参加を得て、11月14日(金)に、電気総合館大講義室で開催された。工学研究科電子工学専攻の白石誠司教授が司会を務められ、講演会に先立ち電気電子工学科長の引原隆士教授が懇話会の趣旨等に

関する挨拶をされた。その後講師にお招きした、島崎 眞昭 名誉教授(昭和41年電子工学科卒)、オムロンの齊藤 ゆみ氏(昭和63年電気第二工学科卒)、N T T 東日本(昭和54年電気第二工学科卒)のお三方により、非常に興味深い講演を頂いた。ご講演の概要は以下の通りである。

◎退職記念行事のご案内

高橋達郎教授におかれましては、来る平成27年3月31日付で退職されることになりました。左記の通り、先生の最終講義を開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

高橋達郎教授 最終講義のご案内

日 時：平成27年3月9日(月) 午後4時00分～午後5時30分
場 所：吉田キャンパス 電気総合館大講義室
題 目：「通信システムの開発と研究40年」

連絡先：新熊 亮一 准教授

Tel: 075-1753-1355
email: shinkuna@kiyoto-u.ac.jp
研究室HP: http://cubekeue.kyoto-u.ac.jp/

※最終講義終了後に懇親会を予定しています。

「計算電磁気学における信頼性について」

(島崎眞昭 名誉教授)



スーパーコンピュータ「京」に代表されるような計算の高速化が進められる一方で、日ごろ忘れがちな科学技術計算の信頼性について、浮動小数点演算の話題を中心に、多くの具体例を用いてわかりやすく紹介していただいた。

浮動小数点演算は有限桁の計算となるため、必然的に近似計算となる。通常のプログラムでは最後の桁以外は正しい結果を与えるように作られているが、それらを組み合わせて使うことで想定外の大きな誤差が生じる例をW.Kahanの例題を用いて紹介された。また、QR分解のように長期間使われ信頼されているライブラリにおいても最近になって新たにバグが報告されたり、コンパイラによる不具合の例など、はじめに信頼性の問題に関する注意点と難しさを示された。

迎 春
二〇一五年一月一日

京都大学
電気関係教室
教員一同

鐵 鐵
S C C
代表取締役社長 松尾 泰

宇宙技術開発 鐵 鐵 社
代表取締役社長 松尾 泰

電子開発学園
北海道情報大学
理事長 松尾 泰

迎 春
二〇一五年一月一日

このような信頼性の問題をうまくあらわした言葉としてW.Kahanの言葉、Significant discrepancies between the computed and the true result are very rare, too rare to worry about all the time, yet not rare enough to ignore. (計算した結果と真の結果に重大な差異があることは非常にまれで、常時心配する必要はないほどであるが、まったく無視できるほどまれではない。)を紹介され、信頼性に対する興味深い考え方を示された。

次に、正しく計算することが難しい単純な問題の例として、精度保証演算で有名なRump氏による重根をもつ行列の固有値を求める問題を取り上げ、丸め誤差程度の摂動が大きな誤差の原因となる仕組みを正解とともにわかりやすく説明していただいた。さらに、計算の不備が現実の問題として表面化した例として、迎撃ミサイル、ロケットの打ち上げ、証券取引所、橋の設計などの具体例を紹介された。これらの問題への対策として、万能の対策は無いが、対象の問題の理解を深め、センスを磨く必要があるという指摘は印象的であった。

一方で新しい方向性として、不確かさの定量化 (Uncertainty Quantification) という考え方について、計算電磁気具体例に基づ

いて紹介された。紹介された方法は関数の数値計算さえできれば統計的に議論できる手法であり、現在のように市販のソフトウェアを使うことが日常になってきている中でも、幅広く適用可能で有効な手法と成り得るということを示された。

このように、科学技術計算において極めて重要であるにもかかわらず、扱いが難しい信頼性に関して、多様な視点から興味深い説明をされた。信頼性の問題に対する万能な対策は無いが、手計算、数値計算、実験など多方面からのアプローチによりセンスを磨くことが重要であると同時に、このような問題はテーマが尽きることが無いので、是非若い方にもチャレンジしていただきたいという強いメッセージをいただいた。



「企業の技術者のキャリアパスとダイバーシティーの現実」オムロンの場合」
(齊藤ゆみ氏)



日本の女性技術者のキャリアパスと働き方の多様性に関して、ご自身の経験を踏まえながらお話しいただいた。特に女性技術者の働き方の多様性を認識することが日本の社会にとって重要であることをご説明いただいた。

まず、自己紹介をかねて齊藤氏の現在の働き方、就職された当時の女性技術者の状況、およびオムロンの状況に関して説明があった。齊藤氏がオムロンに就職された年は男女雇用機会均等法が施行された年の翌年であり、オムロンが初めて技術系から女性を採用した年であった。当時、社内女性の総合職は齊藤氏のみであり大学の研究室と変わらない状況であったことが紹介された。その後、研究所に配属され今日まで技術開発部門を歩んでこられた。現在は旅行

をご趣味とされており、男性技術者と同様に女性技術者にもそれぞれ多様な働き方があることをご説明いただいた。

引き続き女性技術者のキャリアパス形成とダイバーシティーに関して詳しくご説明いただいた。女性・男性に関わらず一般的な技術者は20代で技術を身につけ30代で顧客対応やプロジェクトリーダーなどを経験し40代で管理職になるといったパスを経るが、中には管理職ではなく技術専門職を目標にする技術者もいることが述べられた。島津製作所の田中耕一氏がノーベル賞を受賞したことがきっかけとなり技術専門職が脚光を浴びたが、企業として女性技術者に対して同様の待遇が必要であることが指摘された。女性技術者のキャリアパスのダイバーシティーに関してご自身の経験も踏まえた上で、必ずしも多くの女性が管理職に就くことを望んでいるわけではなく、最終的に一般職や技術専門職に就きたい女性もいることが紹介された。また、現政権が2020年までに女性管理職の割合を30%にすることを目標に掲げていることが紹介された後で、ダイバーシティーとは多くの女性を管理職にすることではなく、女性の働き方の多様性を認めることだ」と的を射たメッセージが述べ

迎 春
二〇一五年一月一日

公益財団法人
京都技術科学センター
(旧財団法人近畿地方発明センター)
理事長 宇山 親雄

公益財団法人
応用科学研究所

継 田中プリント

迎 春
二〇一五年一月一日

べられた。このメッセージは多くの聴講者の心に響いたようで会場からは感嘆のため息が漏れた。

ご講演後の質疑応答では、多数の質問があり聴講者との間で熱心な議論が交わされた。その中で、女性聴講者の一人から「企業は男性と女性をあまり意識しすぎないことが重要ではないか」との意見が出され、齊藤氏はその意見に対し、企業内の論理が男性の論理で成り立っている現状を考えると、女性の論理を少しでも取り入れるきっかけを作るために女性の働き方がある程度は優遇する試みも必要であろう」との意見を述べられた。ご講演の冒頭で聴講者の中に女性が非常に少ないことを嘆いておられたが、齊藤氏のメッセージは女性だけでなく男性聴講者の心にも深く響くものであった。

「日本の未来を拓くICT」

(加賀谷卓氏)

ご講演では、通信業界の動向、NTTの取り組み、グループ紹介



についてお話を頂いた。通信というのは単に情報が行き来するだけではなく、物の流れ、物流も通信と考えることができる。したがって通信はさまざまなものに組み込まれており、通信の役割は「ひと・もの・かねの流れをコントロールすることである」という意味づけをされていた。多様なものの流れに情報を付け加えて高価値化を図るのがこれからの通信であるというお話には、なるほど、と感心した。NTTはこれまで電話のサービスを主体としてきたが、これからは「ネットワークに接続する」というサービスで利益を得たいと考えているようである。

ICTについては、社会環境の変化に対応することの必要性を協調されておられた。来る2020年には東京でオリンピックが開催されるが、これによるさまざまな社会（交通、環境、医療、映像、観光）の変化への対応である。過去の東京オリンピックの折にもいろいろな意味で社会が変化した。情報機器としてのディスプレイ、すなわちヘッドマウントディスプレイなどのようなものにも言及され、設備の修理や管理のような作業に従事する人にとって期待できるデバイスとなるのではないかと観光客にとってでは海外からの

観光客にとつては日本の無線LANの環境は満足できる水準に達していないため、早急な対応が必要であるという説明があった。現在、全国共通の枠組みを策定しつつあるとのことである。通信キャリアとしてのNTTでは、爆発的に増大する情報量のコントロールとして、トラフィックの変化をダイナミックに予測し、適切な映像の配信を目指しているそうである。また、安心安全な通信環境の提供に関してもお話を頂いた。

グループ紹介の中では、NTT東日本の新しい事業への挑戦についてビデオを使ってご紹介いただいた。材料メカと共同で開発したウェアラブルな心電図計測システムである。シャツに心電図の電極が織り込まれており、着ただけで心電図が取れるというのには驚いた。電極の導電性も、シャツの通気性も損なうことなくこれらを両立したそうである。スマートフォンなどを使って自分で心電図計測結果を知ることでもできるとのこと。

ご講演の後の質疑応答では、NTT東日本が求める人材とは？という学生諸君にとつては最も気になる質問が出されたのに対し、オフィシャルには活力のある人、というお答であった。ただ、昨今よく話題になるダイバーシティは

多様性という意味なので、いろいろなタイプの人に来てほしいというお話も頂いたのは、聴講していた学生諸君にとつてはうれしいコメントだったのでないだろうか。最後には、何かをなさそうとすれば、いろんな人の助けが必要だということをお忘れずに。学生さんは今の時代を大切に、とアドバイスを頂いた。

講演会終了後、新装なった北部キャンパス生協食堂2Fで約100名が参加して懇親会が開催された。司会は電気電子工学科長の引原隆士教授が務められた。荒木光彦名誉教授から洛友会を代表してご挨拶頂き、西川禪一名教授の乾杯の挨拶とご発声を頂き始



まった。中締めとして北野正雄理事・副学長からのご挨拶を頂き、その後名残を惜しみつつも、時間の関係で解散した。

会員寄稿

DC旅行のススメ

金澤 哲夫 (平21年卒・関西支部)



皆様はDC(デスティネーションキャンペーン)をご存じでしょうか？私は鉄道会社に勤める身でありながら、つい最近までこの言葉を知りませんでした。インターネットで検索してみますと、デスティネーションキャンペーンとは、JRグループ旅客6社と指定された自治体、地元の観光事業者等が協働で実施する大型観光キャンペーンのこと、とあります。このキャンペーンは昭和53年度(当時は国鉄ですかね)から続いているように、全国各地、様々な地方

でキャンペーンを行ってきたよう
です。しかし、一利用者の目線で
この言葉をとらえると「JRが地
元自治体とタッグを組んで旅行客
を呼ぶキャンペーン」という感じ
でしょうか。実際、私もその程度
にしか感じていませんでした。そ
んな折、ふとした機会に「和歌山
DC旅行」へ誘われました。「せっ
かくだし、あんまり行ったことも
ないからいってみようかな」と簡
単な気持ちで同僚と共に行ってみ
ることにしました。(ちなみに、第
1回のDCも和歌山だったよう
です。)

プランは旅行会社の方が案内し
てくださるもので一泊二日。行き
は岡山から新幹線→特急くろしお
で紀伊勝浦を目指しました。一日
目は移動がメインでホテルに昼過
ぎに着く行程でした。移動だけで
退屈かな?とも思っていました
が、移動中はくろしおから眺める
和歌山のオーシャンビュー、とこ
ろどころの駅で歓迎してくださる
駅員さんを見て、和歌山から歓迎
されているな、としみじみ感じ
ました。DCではご当地のJR社
員が丸となっておもてなしをし
ていますので、所々でこんな「お
もてなし」を受けるのもDC旅行
の一つの醍醐味かもしれません。
ホテルに着きますと日頃の溜
まったものを洗い流すべく温泉



くろしおからのオーシャンビュー! ?
(うまく撮れませんでした)



水平線へ沈む夕日

へ。水平線へ沈む夕日を眺め、温
泉へつかる。最高の贅沢を堪能で
きます。

ご飯は海鮮系を中心とした海の
幸(♪)。素晴らしい景色と食べ
物で一日を終えることができました。

二日目は那智の滝、橋杭岩、潮
岬など南紀の名所という名所へ案
内していただきました。南紀には
自然を中心とした絶景が各所にあ

るので、こういった名所を巡るの
も南紀の一つの醍醐味かもしれま
せん。この魅力は下手な文書より、
実際に見ていただいたほうがより
心に刻まれると思いますので、写
真で簡単に紹介しようと思いま
す。(白黒で見にくいかもしれま
せんが…)



本州最南端、潮岬



橋の杭が並んでいるよう、橋杭岩



那智の滝

これらの名所を存分と堪能し、
帰路へつきました。本当に充実し
た2日間でした。

今回は和歌山DC (平成26年12
月13日まで) でしたが、今後も福
島県、大分県とDCは続々、開催
予定です。旅行先に困ったとき、
どこかへ行きたいけど調べるのが
面倒なときなど、DCの開催地に
行ってみてはどうでしょうか?
きっと自治体やJR、旅行会社が
素晴らしいプランやおもてなしを
用意して待っています。ぜひ、
DCを利用して素晴らしい旅行を
楽しんでください!

東北大学電子情報システ ム・応物系被災建物の復 旧について

吉信 達夫

(昭62年卒・東北支部)



平成23年の東日本大震災によっ
て使用不能となり取り壊された東
北大学電子情報システム・応物系
1号館が約3年半ぶりに復旧し、

平成26年10月24日に開所式が催さ
れました。式では震災以降の私た
ちの歩みを振り返り、従来と変わ
らない教育研究活動を再開できた
ことに感謝するとともに、未だ復
興の道半ばにある被災地に思いを
馳せ、今後も努力していく決意を
全員で新たにしました。

旧1号館は昭和41年に建築され
た8階建ての建物で、約20の研究
室が研究活動を行っておりました
が、3月11日の地震により甚大な
被害を受けました。特に上層階で
はコンクリートが大規模に破壊
し、鉄筋が剥き出しになった様子
がNature誌でも報じられま
したので、写真をご覧になった方
もおられると思います。

地震発生時、私自身は5階の学
生部屋におりました。たまたま来
日中だったドイツ人の教授と打ち
合わせを行っていたところ、緊急
地震速報に続き大きな揺れを感じ
ました。以前、大阪大学在職時に
は阪神・淡路大震災の揺れも経験
しましたが、そのときのガタガタ
と揺さぶられるような感覚とは違
い、ゆっくりと大波に揺られるよ
うな感覚でした。各自ヘルメット
を着用して机の下で揺れが収まる
のを待ちましたが、振幅はますま
す大きくなるように感じられ、こ
のままでは建物が崩壊するのでは
ないかという不安に襲われまし

た。

揺れが収まった後、学生たちに避難を指示し、実験室やトイレに取り残された者がいないか大声で呼び回った後、私もすぐに避難しました。これは毎年避難訓練で実施していた手順ですが、まさか本当にこうして避難する日が来るとは想像していませんでした。壁はいたるところ剥がれ、階段にがれきが積もっていました。1階まで降りてくると、エレベータが落下していました。建物の外に避難した後も、大きな余震が次々と発生し、駐車場の自動車が跳びはねるように揺れていました。後でわかったことですが、私の部屋の扉は錠が変形して開かなくなっていました。たまたま学生部屋にいたのですが、すぐに避難できましたが、もし自分の部屋にいたら閉じ込められていたところでした。まもなく雪が降り始め、気温が急に下がる中、2時間ほどかけて自宅まで歩いて帰りました。その日の深夜、避難所で聞いたラジオのニュースで、津波により2000〜3000名の犠牲者が出ているらしいという情報を初めて知りましたが、震災の実際のスケールを知ることになったのはずっと後でした。

東北大学ではまもなく発生すると予測されていた宮城県沖地震に備えて、実験装置や什器類の耐震

固定が事業場の安全巡視で毎回厳しく指導され、ヘルメットの常備や避難訓練も行っていました。そのおかげで大型物品の転倒による人的被害もなく、迅速に避難することができましたが、それでも建物や実験装置は大きな被害を受けました。青葉山キャンパスは平野部に比べて特に揺れが大きかったとのことで、工学研究科に5つある系のうち3つ(電気、材料、建築)で主要な建物が危険な状態であると判定され、使用できなくなりました。電気系では1号館のほかに北講義棟が大きな被害を受け、4月7日の余震で柱が折れて使用できなくなりました。

被災建物の各研究室は、まず、安全性に問題が無いと判定された建物内の他研究室に身を寄せました。その後、研究資料や実験装置・什器類を運び出す作業が続きました。エレベータが無いため、階段を使っての作業でした。被災建物内は電気が無いため薄暗く冷え込んでいました。その後、特に危険度が高かった屋上階の撤去工事が行われ、壁の一部を壊して、クレーンで重量物を下ろす作業が行われました。大半の研究室は約半年後に建設されたプレハブ棟に移転して3年間過ぎましたが、さ

ら片平地区の電気通信研究所内に広いスペースを無償でご提供いただき、3年余りを不自由なく過ごさせていただきました。

新1号館は、取り壊された旧1号館と北講義棟の合計面積と同じ約19,000平米を有する地上6階建ての建物です。1〜2階は講義室、事務室、会議室等の共通エリア、3階以上が研究室エリアとなっています。停電時にも採光が確保されるよう、3階以上のフロアは3箇所光庭を設けたダブルコリドー形式の計画となっています。病院施設を除く国立大学の建物としては初めて免震装置が取り入れられました。新しい建物でスタッフ・学生一同、心機一転、教育研究に励む所存です。

最後になりましたが、震災以降さまざまな形でご援助いただき、



再建された一号館

また励ましていただきました皆様方にあらためて篤く御礼申し上げます。

スポーツの楽しみ方

村上 勇蔵
(平17年卒・中国支部)

小学校の低学年で野球を始めて以来、キャッチャー一筋で野球を続けてきた私にとってスポーツといえは野球をすることでした。本格的な野球こそ高校で一区切りをつけなければ、大学、大学院時代もいわゆる草野球で野球を楽しんでいました。バットでボールをとらえたときの金属音やミットの芯でボールをつかんだときの感触などは言葉では表せないほどの快感です。

しかし、社会人となってからは環境も変わり、会社の事業所対抗の野球大会で年に一回野球をする程度になりました。このこと自体は非常に残念ですが、逆に社会人になってからスポーツの楽しみかたが新たに2つ増えました。

1つ目はランニングをすることです。チームスポーツの野球と違って一人で行けること、また、日没後でもできるので時間をとりやすいことから、思い立ったときに無理なく続けることができそうです。自宅の前に、昔の線路跡を利

用した自転車歩行者専用道があり、自動車を気にせず安全に走ることができそうです。足が遅いこともあり、学生時代は走ることが苦手でしたが、周りを気にせず自分のペースで走るとはいい気分転換になっています。

去年までは、毎年5月に行われる小豆島のマラソン大会(5km)に出場していました。きっかけは岡山市内の職場から小豆島へ転勤になった同僚に会いに行くついででした。土曜日の夜に飲み会をして、せっかくフェリーで小豆島まで行くのだから、ついでに日曜日のマラソン大会に参加して帰ってこようという軽い気持ちでした。ただ、大勢のランナーと一緒に走ることで生まれる高揚感と完走後にふるまわれる特産品のそうめん

の味がやみつきになり、その翌年以降も参加し続けました。今年も趣向を変えて、10月に岡山で開催された6時間リレーマラソンに出場しました。一周約1.3kmのコースを9人でたすきをつないで6時間走り続け、走行距離は70kmに達しました。約1時間おきに出番がまわってくるのですが、最初こそ余裕があったけれど、だんだんと疲労が蓄積されてきて、終盤の2周はかなりきつかったです。個人で走っていたらおそらく足が止まっていたと思う



けども、たすきのおかげで何とか走りきることができました。翌日、翌々日と階段の上り下りに支障をきたすほど筋肉痛となりましたが、来年以降もまた出たいと思います。ちなみに、リレーマラソンにはソロ部門もあり、一人で6時間走り続ける鉄人のような方々もいらっしやいました。

2つ目の楽しみかたは野球を観ることです。私は広島県出身ということもありカープファンですが、もともと野球は観るものではなくするものというので、ほとんど観戦に行く機会はありませんでした。ただ、入社直後の4カ月間、私は広島市の山奥で集合研修を受けていたのですが、週末には友人たちと市街地へ出かけていました。当時のカープの本拠地であった広島市民球場は広島島の繁華

街にあり、設備こそ老朽化が激しいものの、選手とスタンドの距離も近く、一体感のある応援スタイルで活気あふれるスタンドの雰囲気のとりになりました。そして、研修期間が終わり岡山県へ配属された後もちよくちよく広島へ野球観戦しにいこうになりました。

入社から2年後の2009年には広島駅近くに新球場が完成しました。本場アメリカのボールパークを意識して作られたマツダスタジアムは、座席がきれいでゆったりと観戦できるだけでなく、内外野ともに天然芝が敷き詰められており見た目にも美しいです。広島に來られる際は、原爆ドーム、宮島だけではなくマツダスタジアムもぜひお立ち寄りください。

ここ数年は、広島で行われるカープのホーム試合ではなく、日本各地で行われているビジターの試合を見に行くようになりました。大学時代の草野球仲間たちと年一回、どこかで野球観戦で集まり、その土地のおいしい料理を味わうのがささやかな楽しみになっています。昨年は福岡、今年は名古屋で野球観戦しましたが、どちらの球場でもホームチームに負けないくらい大勢のカープファンが詰めかけていました。話は逸れますが、「カープ女子」が今年の流行語のトップテン入りを果たしま

した。また、某テレビ番組では「カープ大好き芸人」が取り上げられるなど、広島県外でもカープ人気が高まっているようです。お酒も甘いものも大好きな私ですが、現在のところメタボには足を踏み入れていません。スポーツと楽しく向き合いながら、これからもスポーツを心と体の健康づくりに役立てていきたいと思いま

別府と黒田官兵衛

石井 日出男
(昭48年卒・九州支部)

平成19年に、九州電力(株)から、大分共同火力(株)に移籍し、7年、大分で勤務しています。今は、別府に住んでいます。都会(東京や福岡など)と比べると、物価は安いし、温泉はあるし、ゴルフ場は近くて、プレイ代も安く、住みやすいところです。

ところで、この1、2年、「石垣合戦」と書いたのぼりを別府のあちこちで見かけるようになり



のぼり

ました。初めは、気にしませんでした。よく見ると、「大友軍vs黒田軍」、「2014 NHK大河ドラマ」なども一緒に書かれている。何かと思いい、別府在住の社員に聞いてみると、関ヶ原の戦いの時、中津の黒田軍が大友軍と戦っていたと知りました。これが、「石垣原(いしがきばる)の合戦」なのです。

そうなのです。NHK大河ドラマで、出てくるのです。この原稿が皆様の手に届くときには、すでにその場面は放送されていることでしょう(今、11月下旬)。

黒田官兵衛と言えば、播磨からスタートして、全国あちこち、朝鮮半島まで戦いの場があり、領国支配として、豊前・中津、筑前・福岡が有名どころですが、この「石垣原の合戦」では、今住んでいる家から、歩いて10分位くらいの所に、黒田側の本陣があったそうです。住宅街の小さな公園の片隅に、石碑が建てられています。

大分で有名な大友宗麟の嫡子である大友義統(よしむね)は、文禄の役の失態で、秀吉の怒りを買って、改易されて、豊後の国を追われ、毛利家預かりとなった。その後、流浪の身となっていた。秀吉死後、徳川家康(東軍)と石田光成(西軍)に分かれての権力争いの中、西軍の「豊後一国安堵、



黒田軍本陣跡



大友軍本陣跡

豊後下向に際し、武器・軍資金・軍船・援兵を用意する」との言葉に、お家再興を願って、西軍につき、豊後へ向かったのである。

旧家臣である吉弘統幸(むねゆき)は、大友義統に東軍への参加を進言したが、聞き入れてもらえず、統幸は、主人に従い西軍となった。大友軍は、1600年8月、大阪を離れ、9月9日、別府(浜脇)

に上陸、高台である立石に陣を置いた。(現在の、別府市内の南寄り、杉乃井ホテルのあるあたり)

一方、黒田官兵衛は、いち早く大阪の情勢を入手し、関ヶ原の隙をついて、九州、はては、天下も狙おうとする。領内の農民や、浪人などに支度金を与え、9,000人ほどの速成軍を作り上げる。

東軍細川忠興の領地(飛び地)の、杵築(きつき、当時は木付、別府の北方に位置する)では、西軍毛利から、城明け渡しを要求されていた。9月10日夜立石から大友勢が向かい、戦となった。これに対し、黒田軍は、9日に杵築城支援のため中津を出陣、11日それを知った大友勢は撤退。これを追うように、杵築勢、黒田勢、宇佐の時枝勢などが、別府の実相寺山付近に布陣(9月13日昼ごろ)。大友方陣地とは石垣原を挟んで、北側の高台である。どちらも景色がいい。お互いがよく見える。

すぐに合戦が始まる。7度の掛け合いがあった。初めは、黒田軍が大友軍を押し込むものの、吉弘統幸の作戦通りで、現在の、南立石公園付近で大友軍の反撃を受け、黒田軍は多くの武将を失う。しかしながら、数に勝る黒田軍が、最終的には勝利する。

その際、黒田二十四騎のひとり、

のちの黒田藩二番家老となる井上九郎右衛門が、大友義統軍の大將吉弘嘉兵衛統幸に、七つ石付近で一騎打ちで勝利したとされている。

13日、夕方すぎに官兵衛が実相寺についたときには、戦は終わっていたという。

9月15日に、大友義統は降伏し、石垣原の戦いは終了した。なお、応援に向かった加藤清正は、途中で引き返すことになったのです。その先遣隊が旗を立てた地点、別府鶴見ロープウェイ乗り場近くに、旗の台というところがある。一方、関ヶ原では、東軍の勝利となりました。しかも、9月15日、たった1日で。

そののち、官兵衛は、国東半島にある西軍の城を攻略し、小倉城も手中に収め、そして、九州全土を平定するかの勢いでした。しかしながら、本番である関ヶ原は1日で決着しており、官兵衛のもくろみは、外れたのです。とはいっても、黒田家は、長政の活躍により、筑前52万石を与えられます。

ということ、別府市内には、「石垣原の合戦」Ⅱ「もう一つの関ヶ原」の史跡があるのです。黒田側本陣跡、吉弘神社、吉弘統幸の墓、七つ石、大友義統本陣跡、吉弘統幸陣所跡などあります。とくに、石垣原の戦いで討ち死

にした吉弘統幸については、さすがに地元、当時の石垣原にあった宝泉寺(現在も、統幸の菩提寺となっている)の僧が村民とともに、遺骸を手厚く葬り、祠を立て、松を植えた。杵築城の細川家の家臣も統幸の忠義をたたえ、ここを通るときは下馬せよと命じた。これが、「下馬の松」と言われるものである(地名に、小字「下馬松」がつくそうです)。さらに、大正10年、石垣村有志により、神社を建立した。これが、吉弘神社である。統幸の辞世の和歌が残っています。

「あすは誰が 草むす屍(かばね) 照らすらん 石垣原の 今の月影」
また、七つ石は、激戦地の一つで、統幸、最後の地と言われる大石がある。現在、住宅街の中で、公園と稲荷神社と、七つ石温泉(共同浴場、入浴料100円)もある。また、激戦地であった南立石公園の近くには、「古戦場橋」、「古戦場薬局」の名が見える。

というわけで、別府は、温泉だけでなく、官兵衛ゆかりの地でもあることを最近認識したところで、洛友会の皆様も、別府にお越しの際は、温泉だけでなく、是非、官兵衛も思い出ししてください。詳細

は、別府市のホームページを覗くか、「石垣原の戦い」で検索してみてください。沢山、文献もあるようです。



七つ石

同窓会だより

昭和38年卒同窓会開催

電気・電子工学科昭和38年度卒業生の同窓会が、平成26年10月16日(木)横浜はみなとみらいランドマークタワー内の横浜ロイヤルパークホテルで開かれました。本

会は関西と関東で隔年で交互に行われており、今回は関東地区の当番に当たります。前回の京都での集まりの際に任命された幹事4名は、その後関東地区の景勝地などを調査、数回の会合(実はあとの会食を楽しみに)を経て横浜に決



京大電気・電子S38卒業生同窓会 2014年10月16日 於 横浜ロイヤルパークホテル 宴会場 カリヤ

定し、最終的に上記ホテルを選定しました。関西他遠方から7名余が参加し総勢27名が参集、2年ぶりの再会を喜びました。

会は4時半からのウエルカムドリンクに始まり5時から本番がスタート。代表幹事の音頭で乾杯のあと、コース料理の会食、歓談、横浜近辺の観光案内、2部に分けての近況報告、歌唱と続き隣りに予定の3時間が過ぎていきました。

8時に中締めとなり全員で記念写真をとり、2年後に元気な姿で再会することを約して散会となりました。近況報告では、この歳になってさらに腕を上げようとゴルフに打ち込む人、健康の為毎日一万歩の散歩を欠かさぬ人、音楽に関する専門書の翻訳を完成させた人、旧

街道を徒歩での踏破に挑戦中の人、自分の作品を手作りの写真集に作り上げた人、ボランティア活動に熱心な人など、人それぞれに残された人生を楽しむ姿に接することが出来ました。健康を損ねた人もいましたが、高齢者の同窓会では定番の闘病経験談が少なかつたのは意外でありかつうれしいことでもありました。卒業後初めて参加した人もいてそうした人が増えることは大変うれしい限りですが、遠方からの出席は困難であることは仕方のないこととしても、今回出席者数以上の欠席者の近況が心配ではありません。

まだ話し足りない或いは飲み足りない人たちが10名余は、同じビル内のカフェ「ジラフ」で小一時間談笑し二度目の解散となりました。当日宿泊した人たちは翌日思い思いの観光など楽しんだことと思います。出席者並びにホテル側のご協力により無事盛会裏に会を終えられたことを感謝し、次回は関西で今回より一人でも多くの友人に会えることを期待します。

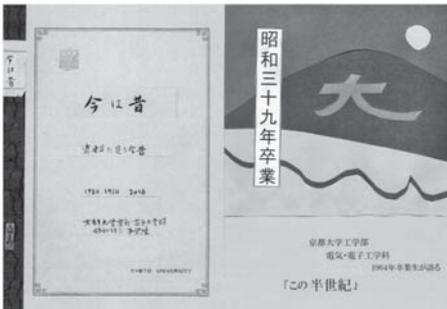
(文責 武内 克彦)

昭和39年卒後50周年同窓会

我々昭和39年学部を卒業した者は、平成26年卒後満50周年を迎え

た。入学した年安保騒動が決着池田内閣の「所得倍増計画」に乗りその最初の一里塚である東京オリンピックの年に卒業した。東海道新幹線が開通、名神高速道路など高速道路が出来てきた。丁度半分の25年後ピークを迎え調整期に入った。劇的な、稀有な50年だったという認識がある。この50年いや半世紀を迎え盛大に同窓会をやるうと計画した。先ず、この半世紀を振り返りどう今を考えるかを問うアンケート(記念文集)を

「39年卒業」電気・電子工学科卒業生が語る「この半世紀」としてまとめ、この間のどんな出来事を重要視するか各人に問う「我々が選ぶ十大ニュース」(51名回答)の選定、今と昔を比較、入学・卒業時の総長告示から何を期待されていたか、経済環境・世相はどう変わったか、履修する科目はどう



変わったか等を「今昔」としてまとめた。平成26年11月26日(水)午後、最後の宇治分校生である我々は、最初に宇治キャンパスを訪れ、佐野教授のヘリオトロンの実験設備、津田所長の生存圏研の説明の後、篠原教授からマイクロ波実験棟の説明を受けた。何れもずっと遠い先の事だがこういうのを研究するのが大学だと感じた。殆どの者が桂キャンパスを知らないことから京都縦貫道を経由して桂へ。

見学者40名。宇治市に通行許可を申請する大型バスをチャーターしなければならなかった。B棟の見晴らしの良い室で高岡教授の説明を受けた後A棟の電気系教室概観、イオンビーム研究室を見せて貰った。広大な敷地で、高低差があり何度も4階を上下して後刻アルコールの周りが早かったと言う者もいた。他方、周りには息を抜くような場所も見えず、しんどいなと言う者もいた。本部吉田では僅かしか時間がなかったがここだけは同じだとホットしたものだ。18時からウエスティン都ホテル「鳳凰の間」で長尾元総長をお迎えして総会を開催。85名卒業して、現在居所判明者66名中51名の出席。実に77%の出席率。これまでの最高率であった。黙祷の後、会長挨拶として「総長訓示のよう

に、自分で考え自ら磨き続けよう！」と述べた。また2年半後に関東東での開催を決めた。続いて懇親会に入り、長尾元総長から次の「東京オリンピック」に向かつてどうするか考えようと同前向きの言葉を頂いた。京大農学部卒の女性杜氏の醸した「京の琴」で、最年長三木君の音頭により乾杯、懇談に入った。初めて出席するもの、2、30年振り出席の者、昔に帰って話に花が咲いた。しばし懇談の後余興に入り最初に*三好君のスピーチ「明日に向かつて今日を生きる」という題で、もつと前に向かつて進もうと言う話。続いて*児山君発表の「我々が選んだこの半世紀の十大ニュース」では近いということもあり「東日本大震災・福一原発事故」がダントツであった。ただ「新幹線開通」は上位入賞だったが「東京オリンピック」が霞んでいたのは如何にも技術屋的ではあるが、鴨宮での新幹線試乗経験によるものか。最後に学生時代からやっていた小澤(マンドリン) 吉田(リコーダ) 両君に最近始めた足立(篠笛)君のトリオの演奏、事前練習の甲斐もあり上々の出来栄。最後には大勢が壇上上がり一緒に歌い、盛り上がった。その後翌日の行事の説明等があり黒田君が中締め挨拶、皆で輪になり肩を組んで、琵琶湖周航の歌の大合唱、天野君による一本締めで閉会。

2次会は3階Bar「ムーンライト」で半数以上26名の参加。違った席配置で友好を温めた。翌11月27日(木)の行事はゴルフと散策。ゴルフ組は京都随一の城陽カントリークラブで18名参加(5組)、好天に恵まれ素晴らしい環境の下でのプレイ、しかし難関コースでスコアは伸びず小島君がブツギリのベスグロで優勝、でも皆大いに楽しんだ。散策組14名は改修なった平等院からスタート、鳳凰堂阿弥陀如来や雲中供養菩薩をじっくり拝観できた。宇治川左岸を溯り丁度50年前運開の関

琵琶湖周航の歌の大合唱、天野君による一本締めで閉会。



京都大学電気・電子工学科卒50周年同窓会
2014年11月26日於フェリス学院ホテル鳳凰の間

電天ヶ瀬発電所を見学、宇治川右岸の紅葉のトンネルを歩いて興聖寺、宇治発、宇治上神社から宇治橋を歩くこと2万歩弱。天候にも恵まれ素晴らしい散策を楽しんだ。卒後50年、これだけ集まるのは最後の機会それだけに皆大いに満足したと思う。

留岡 寛 記

支部だより

関西支部家族見学会報告

平成26年10月18日(土)に関西支部において、第38回を迎えた恒例の家族見学会を開催しました。

前週、前々週と大型台風の接近が度重なり、当日の天気が不安となっておりましたが、その心配が嘘のように当日は清しいほどの秋晴れに恵まれ、朝方は多少冷えましたが、日が昇るにつれて気温もあがり絶好の行楽日和となりました。

当日は、合計82名の方にご参加いただき、愛知県名古屋市内のトヨタ自動車(株)の「トヨタ産業記念博物館」、及び東海旅客鉄道(株)の「リニア・鉄道館」を巡りました。

JR大阪駅に集合後、バス2台



に乗り込み、最初に名古屋市にありますトヨタ産業記念博物館へと向かいました。近代日本の発展を支えた基幹産業の一つである繊維機械や現代を開拓し続ける自動車の技術の変遷にみなさま強く興味をもたれたようで、様々な実演や展示コーナーを集合時間のぎりぎりまで熱心にご覧になられ、まだまだ見たりないのもう一度来たいという言葉もあるほどでした。

昼食は「料理旅館なごや花亭美よし」にて、名古屋名物のきしめん、名古屋コーチンのひつまぶしを堪能しながら、みなさま話も弾んだようで楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

午後からは引き続き、バスに乗りリニア・鉄道館へと向かいました。イベント広場には過去・現在・未来の様々な鉄道が展示されてお

り、大人の「懐かしい」という声や、子供の「格好良い」という声など世代毎で様々な楽しみ方をされていました。また、リニア中央新幹線(品川〜名古屋間)着工認可で盛り上がりを見せる超伝導リニアの展示室内には多くの方が訪れ長蛇の列が出来るほどでした。

その後、バスに乗り本日の訪問地の話で盛り上がりながら一同、帰途につきました。

行程は往路・復路とも全て順調に進み、訪問地の天候にも恵まれ、充実した1日を過ごすことができました。

福田 剛士 記

東京支部

秋の講演会開催報告

26年度の秋の講演会は、11月6日(木)18時30分より学士会館にて開催されました。今回は、「宇宙工学と宇宙政策の世界」探検する宇宙、危機あふれる宇宙、生活に密着した宇宙」と題し、京都大学生存圏研究所・同大学院工学研究科電気工学専攻(協力講座)の山川宏教授からご講演をいただきました。当日は50名の出席がありました。山川先生は講演開始前から会場にいらっしゃり、洛友会会員と気さくにお話を下さいました。また、当日、学士会館にお泊

まりの予定であった松本前総長がお立ち寄りになり、山川先生とご挨拶を交わされる一幕もございました。

講演会は、安田支部長の挨拶で開演しました。山川先生の講演は自己紹介から始まりました。多くの洛友会会員に縁が深いスイス・ジュネーブ生まれでいらっしゃること、東京大学工学系研究科で、宇宙科学研究所長・政府の宇宙開発委員会の委員長を務められた松尾先生の研究室のご出身でいらっしゃること、宇宙科学研究所、JAXA(宇宙航空研究開発機構)を経た後、京都大学に移られ、松本前総長の研究室を引き継がれたこと、ご専門は宇宙工学および軌道工学、特にロケットや人工衛星の飛行計画であること等、ご経歴を紹介頂きました。また、本日の講演では、近年取り組まれている宇宙政策の世界も含め、幅広くお話頂ける旨の説明を頂きました。

先生のお話は、宇宙工学の分野「探検する宇宙」から始まりました。先生は、数多くの地球周回衛星、惑星探査機に携わっておられますが、まず、月探査機「ひてん」のお話をいただきました。修士課程時代に「ひてん」の飛行計画の立案に関わったことが、先生の第一歩であったとのことでした。続いて、世間で大きな話題となった、

小惑星探査機「はやぶさ」の飛行計画も、先生がご担当されたとのことがありました。ターゲットである小惑星イトカワも先生が選定されたこと、また、その大きさが京都駅の駅ビル程度であり、どのように接近するかが技術的な課題であったこと、などのエピソードをご紹介頂きました。更に、お話しは日欧国際協同水星探査計画「BepiColombo」に移りました。プロジェクトマネージャーとして日欧協力をリードされたこと、地球から水星までの飛行計画の立案を担当されたこと、また、現在、衛星本体がほぼ完成し、2016年に打ち上げ予定であることの紹介がありました。この計画は、本日お越しの向井先生(洛友会会員)の指導の元で進められたとのこと、一緒に何度もヨーロッパに足を運ばれた思い出をお話くださいました。

ここで、お話は衛星からロケットに代わりました。固体ロケットの飛行計画立案では、実際の打ち上げに立ち会った際の緊迫した状況や、政府方針で2006年に当時の固体ロケットの運用が中止になったことなど、様々なチャレンジをお話くださいました。また、液体燃料ロケットについて、垂直離着陸型ロケットの実験を世界に先駆けて行われていたことをご紹

介いただきました。更に、昨年イブシロンロケットの打ち上げ管制隊として7年ぶりに現場に復帰され、鹿児島県内之浦からの500機目という記念すべき瞬間に立ち会われたという感慨深いお話をいただきました。

次に、先生のお話は、宇宙政策の分野「生活に密着した宇宙」に移りました。まず、2010年から2012年まで務められた、内閣官房宇宙開発戦略本部事務局長のお話を頂きました。宇宙開発利便性に関して、歴代の宇宙開発担当大臣と毎週のように議論されたり、各省庁と総合調整を行って来られる中、大きく携わられた2つの仕事をご紹介頂きました。1つめは、日本版GPS衛星である準天頂衛星システムの推進であり、現在、既に1機が飛んでおり、あと数年で4機体制になるとのことです。2つめは、内閣府宇宙戦略室・宇宙政策委員会を設置するための法改正であり、現在、先生はこれにより設置された宇宙政策委員会の委員を務めておられるとのことでした。この宇宙政策委員会では、現在、松本前総長も委員として関わっておられ、毎週のように一緒に議論をされているとのことでした。また、委員会に安倍首相が出席された際のエピソードもお話いただきました。

最後に、お話は大学での研究「危機あふれる宇宙」に進みました。先生の研究室には、洛友会員の後輩である電気工学専攻の12名の学生がいますが、皆、極めて優秀であるとの嬉しいお話がありました。続いて、現在注力している2つの研究テーマをご紹介いただきました。1つめのテーマは「宇宙ごみ」への対応です。現在軌道上に4,500トンもの人口物体が存在しており、国際的にも危険性が議論されているとのことで、その観測に貢献すべく、京都大学生存圏研究所が保有する「MURUGA」を活用した取組を進めておられるとのことでした。また、宇宙ごみを帯電させ、地球地場との作用によるローレンツ力により、これを除去する研究も進めておられるとのことがありました。2つめのテーマは、地球に衝突する「小惑星」への対応です。2013年にチェリヤビンスクに飛来した例も記憶に新しく、小惑星が地球に衝突する事例は、100年に1回程度で発生し得ると言われており、現在、人類として対処すべき危機と認識されています。そこで、小惑星に高速度で衛星を衝突させることで軌道を変え、衝突を回避するという研究テーマのご紹介がありました。本テーマは、アメリカ・ヨーロッパ・国連でも委員会



が立ち上がり、検討が進められているとのことでした。以上で先生の講演は終了し、質疑応答に移りました。講演内容に対する会員の反響は高く、6件もの質問が寄せられました。予定時間の超過後も、山川先生は全ての質問に丁寧にお答えくださいました。質疑応答に続いて、懇親会

を開催いたしました。安田支部長の乾杯の発声の後、山川先生はケネディ駐日米国大使とのお約束がありました。残念ながら会場を後にされましたが、会員各位の間では、講演の内容を踏まえた活発な議論や意見交換が行われました。技術・政策の両面で日本の宇宙開発戦略に精通されておられる山川先生から、宇宙開発の最新状況について幅広くお話を頂け、今後への期待が更に膨らみました。日本の宇宙開発が益々発展し、「探検する宇宙」「危機あふれる宇宙」「生活に密着した宇宙」の全ての面において、世界をリードすることを楽しみにしています。報告 洛友会東京支部 総務幹事 古屋 裕規 (平7年卒)

- 第102回 関西支部ゴルフ競技会報告
- △プレー状況▽
- 第102回関西支部ゴルフ競技会が平成26年10月11日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。
- 当日は天候に恵まれ、アウトは伊藤氏(S34年卒)、インは細田氏(S36年卒)の始球式でプレーを開始し、合計14名(うちシニア7名)が競技に汗を流されました。結果は以下のとおりです。
- (シニアの部)
 - 優勝 細田純一郎 (S36年卒)
 - 2位 伊藤 俊一 (S34年卒)
 - 3位 平嶋 正芳 (S38年卒)
 - (一般の部)
 - 優勝 島岡 正憲 (S52年卒)
 - 2位 谷口 充展 (H21年卒)
 - 3位 美濃 由明 (S56年卒)
- △懇親会▽
- プレー終了後、大久保氏(S60年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。
- 表彰式では、入賞者に景品および優勝カップが手渡されたあと、入賞報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。
- △お知らせ▽
- 洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催しております。次回は平成27年5月9日(土)を予定しております。若い方も含めて、多数の皆様のご参加をお待ちしております。
- △連絡先▽
- 大久保昌利 (S60年卒)
- 乾 貴行 (H20年卒)
- 連絡先
- 050-7104-5934(乾)
- inuitakayuki@akkepcoco.jp



第102回 関西洛友会ゴルフ競技会 参加者集合写真

編集後記に代えて

東西対決

玉川上水 Vs. 琵琶湖疏水

編集者は、山科に住んでいます。

山科の北側の山裾には、琵琶湖疏水が流れています。緑が濃く、平坦で格好の散歩やジョギングコースとして利用されています。私も毎週散歩しています。10数年前に山科に引越すまでは、東京立川市の郊外の玉川上水沿いに住んでいました。琵琶湖疏水と玉川上水は、ともに運河で、飲料水と灌漑を目的として作られ、水運(舟による物資の運搬)にも利用されました。玉川上水は江戸時代、琵琶湖疏水は明治時代に作られています。玉川上水は、羽村(はむら)市で多摩川から取水し、平坦な武蔵野台地を43kmにわたって流れ、四谷まで到達します。上水の名前の通り、飲料用に使われ、上水の両側は、水質保護のために自然林となっています。野火止用水などの分水は、主に農業用に利用されたようです。一方の琵琶湖疏水は、大津で取水し、山科を流れて、蹴上に至ります。蹴上には発電所、浄水場、インクラインが残っています。蹴上で2手に分かれます。一方は動物園の南を西進し鴨川に流れます。もう一方は、南禅寺の水路閣を通って北上し、哲学の道の流れ、農学部を北を通り、高野川の下をくぐり、松が崎へと延びています。大津と山科の間や山科と蹴上の間には、トンネルやポンプなども使われ、高低差だけに頼る玉川上水とは対照的です。

ある日、いつも通りに琵琶湖疏水を散歩していると、東京に住んでいた時も玉川上水を散歩していたことを思い出しました。そこで、良く似た玉川上水と琵琶湖疏水私の頭の中で対決させることにしました。運河の東西対決です。第1回戦はコースの管理状況にしました。利用者として大変重要なテーマです。結果は琵琶湖疏水の圧勝です。琵琶湖疏水は、散歩やジョギングのコースが良く整備され、大変歩きやすくなっています。一方玉川上水は、むき出しになつた木の根を避けながら歩く必要があり。琵琶湖疏水は年度末が近付くと、取水を止め、底にたまつた土を清掃したり、傷んだコンクリートの修繕を行います。大規模な修繕の時は、古い石垣が顔を覗かせます。先年の赤枯れの際も、枯れた木を伐採し、ビニール袋に詰めて、虫がこれ以上被害を広げないように手当てをしています。人通りが少なく、ときどき盗難自転車や放置されている玉川上水は琵琶湖疏水の敵ではありません。

第2戦は自然環境にしました。人間の手が加わっていない玉川上水に有利なテーマです。結果は、やはり琵琶湖疏水の圧勝です。琵琶湖疏水は、山の中腹を流れ、山と市街地の間にあります。北側の自然豊かな山に住む、たくさんの種類の野鳥が疏水に顔を出します。早春の工事期間は、疏水の底にちよろちよろと水が流れるだけなので、格好の水場になります。天気が良く、人通りの途絶える12時前に、カメラと双眼鏡を持っていきます。綺麗な羽根の色の鳥をカメラに収めると、大きな得をした気分です。イノシシや鹿・猿もいます。拙宅にも猿が4回ほど来ています。一方、玉川上水は畑の真ん中に作られています。今は住宅地に代わっているので、空から見ると住宅地の中にグリーンベル

トが一本通っているように見えるはず。自然の樹木が残っているとはいえ、片側が山林の琵琶湖疏水には、自然環境が勝負では敵うはずありません。

玉川上水の旗色が悪いので、全敗を避けるための切り札を考えました。思いついたテーマは歴史です。玉川上水は江戸時代、琵琶湖疏水は明治時代に作られています。また、玉川上水ができるまでには、玉川兄弟の血の滲む努力がありました。そうそう、太宰治も居ます。太宰は、玉川上水に入水しています。これで1勝2敗で、何とか無事に玉川上水の顔もたつたと安堵しました。その時散歩はコースの終盤に近づきました。そこは、天智天皇陵の裏手です。京都には天皇の陵墓がたくさんあり、「御陵」という町名・地名も多数あります。そのなかで、「みささぎ」と読ませるのは、ここ山科の天智天皇陵だけで、ほかは「ごりょう」と読みます。天智天皇への特別な思いがそのようにさせていると聞いたことがあります。太宰治の健闘もむなしく、歴史は引き分けて、総合成績は琵琶湖疏水の2勝1分けとなりました。(写真は、天智天皇陵の入り口と陵墓です。)

計

昭15 小南 光夫 26・11・5

昭23 深井 泰 26・11・12

昭23 松本 次郎 26・4・10

昭24 林 正之 26・7・5

昭27 山本 春也 26・12・2

昭28 真鍋 敬二 26・6・1

昭28 山本 健三 26・11・4

昭29 北村 佑二 26・9・30

昭29 多田 久守 26・9・2

昭30 宇野 潤三 26・10・1

昭39 伊藤 紀夫 26・8・22

昭40 分田 實 26・7・26

昭42 小林 勝 26・12・6

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。



計

昭15	小南	光夫	26	11	5
昭23	深井	泰	26	11	12
昭23	松本	次郎	26	4	10
昭24	林	正之	26	7	5
昭27	山本	春也	26	12	2
昭28	真鍋	敬二	26	6	1
昭28	山本	健三	26	11	4
昭29	北村	佑二	26	9	30
昭29	多田	久守	26	9	2
昭30	宇野	潤三	26	10	1
昭39	伊藤	紀夫	26	8	22
昭40	分田	實	26	7	26
昭42	小林	勝	26	12	6